

5年生「大造じいさんとがん」実践記録

◆「大造じいさんとがん」一枚指導案

発問・指示など	児童の応答予想	教師の対応と組織
誰と誰が戦っていましたか	<p>本時の場面を読む</p> <p>残雪とはやぶさ 空中で 羽をとばしながら</p>	戦いの場所や様子について聞き返していく
残雪の武器は？	<p>大きなはね 相手をたたく</p>	それぞれの武器をどのように使っていたかということを思い起こさせる
はやぶさは？	<p>鋭い足のつめ くちばし 胸のあたりをつかむ くちばしでかみつく</p> <p>もつれあってぬま地に落ちていった</p>	落ちる途中で戦いが続いていることに気づかせる
それをみた大造じいさんはどうした	<p>かけつけた 走っていった 様子を見ようと思って 残雪のことが気になって</p>	
落ちたところへいってみるとどうでしたか	<p>地上ではげしく戦っていた でも、はやぶさはよろめき ながら逃げていった</p>	違いをつかませる
残雪はにげなかったの	<p>逃げられなかった 胸に傷をおっていた 死にかけるほどの傷 でも、首を持ち上げてじ いさんをにらみつけていた</p>	残雪とはやぶさの傷の違いをイメージさせる
大造じいさんはどのように手をのばしたでしょう	<p>両手で すくい上げるように やさしい感じ</p>	大造じいさんの気持ちにふかいりしない
なぜ大造じいさんはただの鳥に対してしているような気がしなかったのでしょうか	<p>おとりのがんなのに助け にいったから 頭領として立派だったか ら人間以上に思えた</p>	2～3人発表させてからノートに書かせる

☆授業を終えて

1) T : それをみていた大造じいさんはどうしましたか

P : 走っていった

T : どうして走っていったの

P : どうなったのかなと思ったから

残雪のことが心配だったから

残雪をつかまえようと思って

◆三つの対立意見がでた後の対応について

- ・ここでは、ある程度の意見交流でおわったが後の「手ののばし方」のところで、もう一度「つかまえる気があったのかどうか」という点について考え直しておく、子どもたちの考えを整理してやることができた

2) T : 大造じいさんはどのように手をのばしたの

P : 両手で

何もしないよという感じで

傷をかばうようにして

◆「両手か片手か」という部分についてつっこんでいくことのみを考えていたが、

「手のひらの向き」ということに焦点を当てるのも、子どもたちに大造じいさんの気持ちを考えさせる手掛かりにしやすいのではないか。

◆同時に、最初の「つかまえる気持ち」があったかどうかをはっきりさせる手がかりにもなり得るだろう。

3) 最後の箇所

T : なぜただの鳥に対してのような気がしなかったのだろう

と聞いていくと、残雪のすごさに目がいきまがちなになり、肝心の大造じいさんの人物像にせまっていきにくい。

残雪の行動が、実は鳥としての自然な行動かもしれないのに、そこに大造じいさんが人間性を感じとっていた、という展開にしていくべきなのかもしれない。

T : 大造じいさんは残雪のどんな行動をみて強く心をうたれたのでしょうか。

P : おとりのがんと命がけで助けにいったこと

大けがをしているのにまだ戦おうとしているところ

T : 頭領としての威厳をきずつけまいとしてやったのだろうか

P : きずつけまいとしているように見えた

T : 誰がそう感じたの

P : 大造じいさん

T : だから憎らしかった残雪なのに、やさしく手を出してあげたんだね

P : やさしい人だな

(というような形ですすめていけたのかもしれない)

◆ただ、この形でも、犠牲とか命がけという態度を美化してしまうような方向になりがちなので、そのあたりをどう克服していけばいいかを考えていきたい。

授業づくりのネタ（「大造じいさんとがん」の場合）

◇一場面（最初～いまいまして思っていた）

①大造じいさんが狩り場にしている「ぬま地」のイメージ化

T：大造じいさんはどこをかり場にしていますか

P：ぬま地

T：どんなぬま地ですか（まわりに何があると思う）

P：かりゅうどたちの住んでいる家

山が遠くにある

草がたくさん生えている

ぬま地にはがんのえさになるものがたくさんある……

T：そんなぬま地に誰がやってきたの

P：残雪 がんの群れ

◇二場面（そこで、残雪が～ばらまいておいて。）

①大造じいさんの特別な方法

T：大造じいさんは何を持ってぬま地へ出かけていったの

P：くい、たたみ糸、たにし、うなぎつりばり、くいうち

（それぞれのものについての用途を問いただしていく。と同時に持っていった数に目を向けさせていく）

◇たたみ糸、うなぎ釣り針については、実物を用意してみた。現在では、たたみ糸は、大造じいさんが使ったものとは違う材質のものしか使われていないので、同じものとはいえないが、畳屋さんに行って、わけを話すと、たくさん分けてもらうことが出来た。うなぎ釣り針については、釣具屋さんで色々なサイズのものが販売されているので、店員さんに仕掛けのことを話して適当と思われるサイズのものを探してもらった。

◇がんがどのようにして餌を食べるのかということについては、天王寺動物園のがん・かも科の飼育を担当している方に取材をした。仕掛けのことを話したところ、はっきりとしたことは言えないが、殻を噛み砕いて食べるのではなく、からごと鵜呑みにして食べるというがんの生態から考えて、うなぎ釣り針とタニシは、離れたところにあるのではないのでしょうかというような解答を得た。

T：特別な方法を仕掛けるのにどれくらいの時間をかけたのかな

（今後のそれぞれの方法について手間を考えさせるきっかけにしていく）

T：翌日大造じいさんはどんな顔をしてぬま地に向かったでしょう

P：うれしそう 楽しそう（大造じいさんの期待に目を向けさせる）

◇三場面（そのよく日～今さらのように感じたのであった。）

①出かけるときに大造じいさんが見た情景

T：出かける時どんな景色でしたか

P：秋の日は美しかった

T：美しく見えたのは誰

P：大造じいさん

T : なぜ、この日だけそんなに美しく見えたのだろう

P : 気持ちがわくわくしているから
楽しみなことがあるから
がんがたくさんとれるぞという期待があるから
(情景描写と心理描写の関係をとらえる)

②仕掛けたわながどうなっていたか

- ◆「・・・えをすぐには飲み込まないで・・・」というところで、がんはたにしを飲み込んで食べるということがわかる。ということは、仕掛けのうなぎつりばりの部分がかわしくイメージできる。つまり、つりばりにたにしをさし込むのでは、なくてつりばりの根元の所にたにしをくりつけておいたのだろう。
- ◆文章をていねいに読んでいくことでイメージというものは、どんどん深められていくということを実感させることができる部分として使っていき、今後のイメージづくりの助けとしていく。

◇四場面（そのよく年も・・・がんの群を待った。）

①第二の作戦の準備

T : 今度は何を用意したのですか

P : たにし たにしを五俵（五俵ものたにしを集めることの大変さを強調する）
夏のうちから（前回よりも準備に手間をかけている）
(手間の違いという点から大造じいさんの残雪に向かう気持ちの高まりをとらえさせている格好の材料がたくさん用意されている場面なので「五俵」「夏のうちから」「そのよく日も、そのまたよく日も」というあたりを強調していく。)

T : 夜の間に何を作ったのですか

P : 小さな小屋
大きいのでは目立つから、できるだけ小さい小屋をつくった
まわりの草と同じような色のわらのようなもので小屋をつくった
もぐりこんだと書いてあるから、かがんではいれるくらいの小さな小屋だった
(小屋の大きさや材料など、つけたしを組織しやすい部分なので、出にくければ詳しくつっこんでいくことで「つけたし」の仕方を実際に経験させていくように気をつける。)

◇五場面（あかつきの光が・・・「ううん。」とうなってしまった。）

①小屋のむきとがんの群が逃げた場所の関係

T : 大造じいさんは今どこにいますか

P : ぬま地のちかくの小屋のなか
しゃがみこむような姿勢で
手には銃をもっている

T : 小屋はどちらの方向を向いているの

P : あかつきの光がさしこんでくるから東の方を向いている
(出にくい場合は、クイズ的になってもいいから「文のなかにちゃんと証拠があるんだよ」と指

示すると探し出す子がでてくる。場合によっては、あかつきの光とは何かということを聞いて
いってもいい。そうすることで証拠を探すきっかけとなっていく)

T : がんの群はどちらの方向からやってきますか

P : ぐんぐんやってくると書いてあるから、東の方向からやってきている

T : がんの群はどちらの方角に着陸したの

P : 西側のはし

大造じいさんの小屋は東をむいているから西側に着陸すると小屋のなかにい

て銃でねらうことができないから、西側に着陸した

(この読みとりで残雪のすごさを深く感じるができる)

◇がんの群れが、黒い点々に見えるというような表現から考えても、これは逆光になっているため
にこのような見え方をしているのだから「あかつきの光」をバックにして飛んできていると
いうことがイメージできる。